

(IgA 血管炎に伴う腎炎(紫斑病性腎炎)における腎間質内免疫細胞の関与) に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年6月14日～2025年3月31日

〔研究課題〕

IgA 血管炎に伴う腎炎(紫斑病性腎炎)における腎間質 B 細胞浸潤と 3 次リンパ組織新生に関する臨床病理学的解析

〔研究目的〕

IgA 血管炎に伴う腎炎(紫斑病性腎炎)は紫斑病の一症状としてみられる腎炎で、腎臓の糸球体に免疫グロブリン A(IgA)が沈着して炎症を起こしてくる原因不明の病気です。ときに慢性の経過をたどり末期の腎不全になることがあります。確立した治療法はありません。予後の予測因子は明らかではなく、その検討は重要と考えられます。類似性のある IgA 腎症では、腎臓内での免疫細胞の存在は腎予後不良である可能性が報告されています。この度、腎臓内での免疫細胞の存在と臨床検査項目や腎予後との関係が、IgA 血管炎に伴う腎炎ではどうであるかを探るために調査を行なうことと致しました。

〔研究意義〕

IgA 血管炎に伴う腎炎に伴う腎内の免疫細胞存在の腎予後への関与の一端が明らかになれば、免疫抑制療法に関する治療方針決定に役に立つと考えられます。

〔対象・研究方法〕

2008 年から 2018 年 12 月までに IgA 血管炎に伴う腎炎の診断を受け、入院治療された患者さまが対象となります。調査項目は、年齢・性別・臨床症状・検査データ・治療方法・経過などです。また、腎生検で採取した腎組織の検査も行います。さらに他の疾患との比較のために菲薄基底膜病および IgA 腎症と診断された患者様の情報も検討させていただきます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 内科

〔個人情報の取り扱い〕

調査項目・検体はすべて既存のものであり、データ上すべての患者さまは匿名化され、名前・住所・電話番号なおプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切なく、何らかの負担が生じることもありません。また一人ひとりの病気の状況を発信することはありません。解析後のデータは安全にかつ完全に破棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者:内科学講座 教授 藤垣嘉秀

研究分担者:内科学講座 教授 柴田茂、内科学講座 講師 田村好古、内科学講座 講師 山崎修、
附属病院 非常勤医師 富樫良

住所:東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-2111 (代表) (代表) [モバイル 7388]